

陳情第 6 9 号		受理年月日	令和 7 年 1 1 月 2 6 日
付託委員会		都市戦略整備委員会	
件名	折尾駅南側駅前広場の歴史伝承「線路跡にラインを描く」などについて		
要 旨			
<p>折尾駅は、日本初の立体交差駅として、東西南北から人や物が集まり、遠賀の都として繁栄し、学校の多い街になった。</p> <p>折尾地区総合整備事業の計画では、多くの歴史遺産が失われる予定であったが、当会は、この事業を「住む人に誇りを、来る人に感動を与える街づくり」の好機と捉え、「本物を見せ、先人の奇想天外な知恵や努力を語り継ぎ、誇りを持てる『折尾駅まるごと博物館』を作りたい」と提案し、実現を目指した活動をしている。</p> <p>当会が特に力を入れているのは、折尾の歴史の重要なものを一望にすることができる、折尾駅南側の歴史の伝承である。2005年、おりお未来 21 協議会の運営委員として活動していた際、ＪＲ千早駅のような、窓のない駅になると市職員からお聞きした。そこで、ことあるごとに、ＪＲ九州や関係者に、折尾駅南側の歴史の重要性、その景色を俯瞰して見ることのできる窓の必要性を懇願し続けた。その結果、透明な防音壁になったのを見た時は、本当に感慨無量であった。透明になったことで、南側の景色だけでなく、ホームから駅舎正面も見ることができる珍しい駅になった。列車の中から駅舎の正面を見ることができるのは、立体交差駅の証明である。今回、線路の交差部分が博多側に移動したことにより、ホームに居ながら駅舎の正面が見え、旧折尾駅が立体交差駅であった証が伝承されている。</p> <p>一方で、本年10月中旬に、旧西鉄電車高架橋の支柱の照明灯が壊されているのを目にした。調べたところ、おりお未来21協議会の提案を受けて、ステージ後側に設置する旧西鉄電車高架橋の支柱の照明灯の計画が無くなったこと、更に、短絡線の線路のラインを歩道に描く計画も無くなったことを知った。おりお未来21協議会の提案を受けて、南側駅前広場の大切な計画が変更されていていいものであろうか。</p>			

については、下記の要望事項の検討を陳情したい。

陳情事項

- 1 筑豊本線跡と短絡線跡に「線路跡のライン」を描いて頂きたい。

今回、南側駅前広場に、筑豊本線の線路跡のラインを描くことで、石炭輸送で日本の近代化産業を支えた「水運の堀川運河」、「陸運の筑豊本線」の石炭輸送の移り変わりを見て理解することができる。

また、短絡線(筑豊本線と鹿児島本線の貨物列車のバイパス)の線路跡のラインを描くことで、旧西鉄電車(赤煉瓦高架橋)と立体交差していたこと、短絡線の貨物ホームがあった場所に鷹見口改札を設け、列車の乗換に一旦改札口を出て150メートル離れた改札口から入りなおす珍しい駅だった歴史や先人の知恵も伝承することができる。

- 2 植栽予定場所に、縮小版の折尾駅舎のオブジェを設置して頂きたい。

現在、折尾駅構内に旧折尾駅の東西南北から見た写真と、説明入りのオブジェ(当会作成)を展示中である。

- 3 取り壊された旧西鉄電車高架橋の支柱の照明灯4本は、ステージの所に設置することができないが、その代わりに「ありがとう折尾駅舎の記念写真 平成24(2019)年10月14日撮影」を設置し、裏面に折尾の歴史や折尾地区総合整備事業の経過などを記載して頂きたい。

久々に訪れた方々が、同じような外観の駅舎が北側にあり、迷っていることがある。旧折尾駅の記念写真を設置することで、昔を知っている方には懐かしく、感性豊かな若者には先人の知恵が伝えられる。更に、小学校で堀川運河を学んだ子供たちのように、折尾の街に誇りを持つことで、折尾のまちづくりが魅力あるものになってくると思う。